

瓊水

瓊のように清く 鉄のように強く 手をつなぎ
のびる北っ子

校長 田崎俊一郎



感謝の気持ちをこめて!

ミラノ・コルティナオリンピックが閉幕しました。それぞれの選手の活躍は閉心に残るものばかりでした。その中で私が一番印象に残ったのはスノーボードの

平野歩夢選手です。連覇の期待がかかる中、1か月前の負傷で2か所の骨折をかかえながら演技をした平野選手の「生きて戻ってこれてよかった」という言葉は、オリンピックにかける思いの強さ・演技にかける決意を感じさせるものでした。7位という結果は思い描くものではなかったかもしれませんが、本人が話すように「全力でチャレンジしたことは意味深いものであったと思います。」

さて、2月も最終週となり、学年のゴールも見えてきました。各学年、学習や生活のまじめに取り組む時です。それと同時に3月6日金曜日に予定されているお別れ集会・遠足に向けての準備もはじまっています。感謝の気持ちがしっかりと伝わるものにしていきたいと思えます。さらに、今週からは在校生が集まって卒業式に向けての練習をスタートする予定でしたが、インフルエンザによる欠席が増えたため、各学級での練習となります。卒業式は、数ある学校行事の中でも重要な行事のひとつです。自分たちが主役となる入学式と卒業式は、6年間の学校生活でたった1度だけしかありません。特に卒業式は、6年間の成長を実感するとともに、これまで6年間育ててくれた方へ感謝を伝えるとても大切な式です。在校生、そして卒業生にしっかりと卒業式の意義を理解させ、これから練習に取り組んでいきたいと思えます。

地域のよさをいかして!

地域には学ぶべきものがたくさんあります。その一つが東荻田に伝わる荻田浮立です。

荻田浮立は江戸時代末期から今に伝わる平戸市指定文化財です。北小では、4年生がその荻田浮立について学習をしています。先週の金曜日、地域の方に直接お話を聞くために東荻田公民館に行きました。



地域の方に荻田浮立についてお話を聞いた後、鉦や太鼓、獅子舞などに触れさせていただきました。毎週笛を練習している児童もいますが、ほとんどの児童ははじめてです。獅子舞や鉦、太鼓にふれることができ、子どもたちの関心

も一気に高まりました。

どの伝統行事もそうですが、荻田浮立も年々参加する人が少なくなってきたことが悩みだそうです。継承されている方も高齢化し、教えることも難しくなってきたと話をされていました。地域の特色を生かした学校づくりがもとめられている学校としては、地域の教育力をうまく教育課程の中に組み入れることが大切だと考えています。より地域と連携することで地域の力をもっと学校教育の中に生かしていけないかと思えます。今後、より連携を深めていきたいです。